

自己啓発についての一考察

－IBARAKI サイエンスオンラインセミナーの実施を通して－

茨城県教育研修センター教科教育課 西條 博崇

A consideration about self-development

－Through the implementation of the IBARAKI Science Online Seminar－

NISHIJO Hiroataka

【要旨】

令和2年、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、全世界で混乱が起きた。現在では、新しい生活様式を意識し、働き方も変わりつつある。新型コロナウイルス感染症が働く人の意識におよぼす影響は計り知れない。本稿では、働く人の意識の変化と自己啓発に対する取り組みに焦点を絞り、コロナ禍がどのような影響を与えたのかを調査結果から分析と考察を述べる。また、自己啓発の一環として独自に実施したIBARAKIサイエンスオンラインセミナーの取り組みについて紹介する。

キーワード：新型コロナウイルス感染症，自己啓発，サイエンスオンラインセミナー

1 はじめに

2019年12月、中国湖北省武漢市で初めて感染が明らかになった新型コロナウイルスは、瞬く間に世界各国に感染が広がった。感染拡大を防ぐため、各国政府ともに厳しいロックダウン（都市封鎖）や入国制限措置を導入したことから、人とモノの移動が世界的に停滞し、経済に深刻な打撃を与えている。今現在（2021年1月）も収まる気配がない。人類の歴史を遡っても、1918～20年に大流行したスペイン風邪（スペインインフルエンザ）以来の、文字通り「100年に一度」の大規模なパンデミック（世界的大流行）である。失業率が上がり、経済が想定外に悪化するなど、各国の主要経済統計を見てもその経済的なインパクトが極めて大きい。リーマンショックをはるかに上回り、世界経済は1920年代に始まった大恐慌に匹敵する危機に見舞われている。

日本では2020年5月に、緊急事態宣言が出され、社会活動や学校教育活動が止まった。2020年夏に開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックも延期を余儀なくされ、大混乱となった。記憶に鮮明に残る2020年になることは間違いない。

このような社会背景の中、本稿では、変化が激しい時代だからこそその「自己啓発」の必要性を論じていく。果たして、我々は、これからどんな生き方をすればいいのだろうか。人生の豊かさや生きがいとは何であろうかと問いながら書いた本稿である。ご一読いただければ幸いです。

2 各種調査結果より

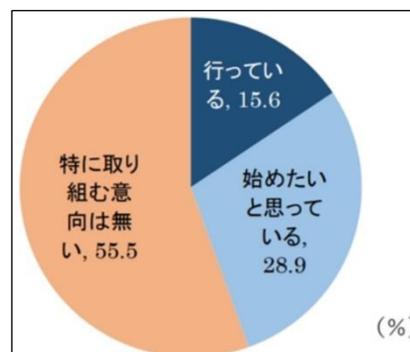
自己啓発についての調査結果について示す。以下、公益財団法人日本生産性本部第3回働く人の意識に関する調査結果調査（2020年10月16日：我が国の企業・団体雇用をされている者1,100人を対象）結果を参考に、分析と考察を述べる。

資料1は自己啓発を「始めた」かどうかを聞いた結果である。自己啓発を通じて自分の価値を高める取り組みを行っているかどうかを聞いた設問である。

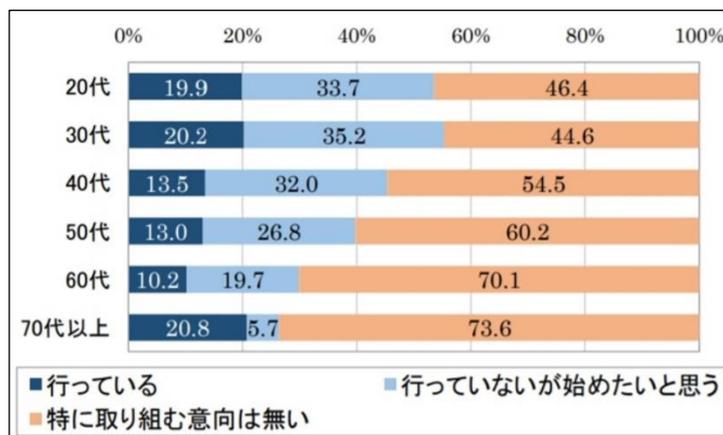
調査の結果、自己啓発を「行っている」は15.6%、「行っていないが、始めたいと思っている」は28.9%、「特に取り組む予定は無い」は55.5%となっている。この結果から、自己啓発に前向きな姿勢を示す者は4割強だが、実際に行っている者は2割も満たないのが現状であることが分かった。コロナ禍でテレワーク等の在宅勤務が増え、生み出された時間で、新たな取組を行った人は少なく、自己啓発を行っている者は多くないことが考察できる。

資料2は年代別・自己啓発の実施状況である。年代、職種、雇用形態、従業員規模などは関連性があるだろうが、ここでは年代別の結果を分析する。自己啓発を「行っている」割合が約2割を越しているのは、20代、30代、70代である。ただし、70代は「特に取り組む意向は無い」も73.6%で最も多い。20代、30代は「行っていないが、始めたいと思う」が他の年代より多い。また肯定的な意見が5割以上と他の年代より多く、自己啓発に積極的な姿勢を示していることが分析できる。

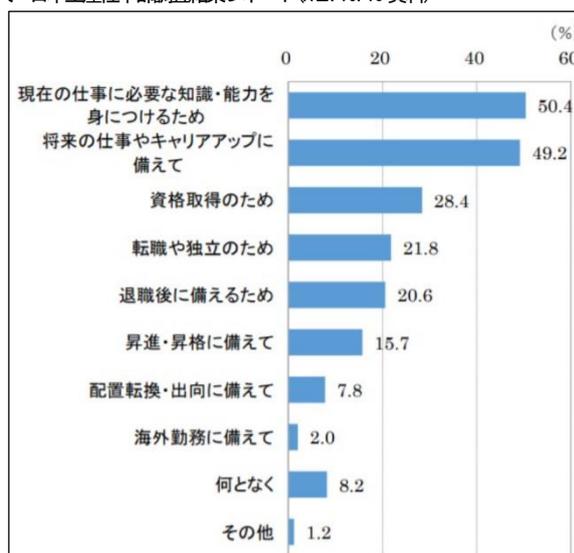
資料3は、自己啓発を「行ってい



資料1 自己啓発の実施有無
公益財団法人 日本生産性本部
調査結果レポート(R2.10.16 資料)



資料2 年代別・自己啓発の実施状況
公益財団法人 日本生産性本部調査結果レポート(R2.10.16 資料)



資料3 自己啓発の目的
公益財団法人 日本生産性本部調査結果レポート(R2.10.16 資料)

る」,「始めたいと思っている」と回答した者を対象に,自己啓発の目的を複数回答で質問した結果である。最も多いのは「現在の仕事に必要な知識・能力を身につけるため」50.4%,次いで「将来の仕事やキャリアアップに備えて」49.2%となっている。「資格取得のため」28.4%,「転職や独立のため」21.8%が続いている。仕事のスキルアップ,キャリアアップという考え方が多いことが分かる。

資料4は,自己啓発を「行っている」回答者を対象に,自己啓発の方法について複数回答で質問した結果である。

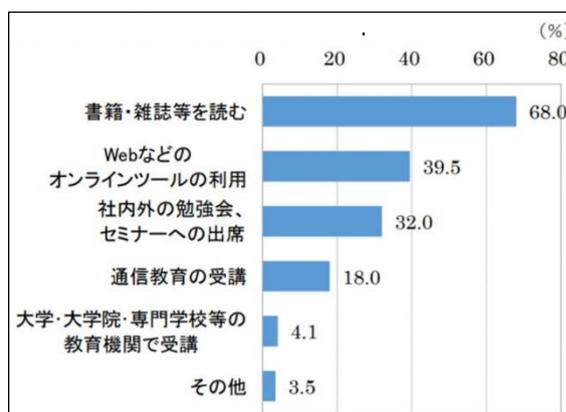
「書籍・雑誌等を読む」一般的な方法が68.0%と多数を占めている。

一方で,「Web などのオンラインツールの活用」が39.5%となり,「社内外の勉強会,セミナーへの出席」の32.0%を上回っていることが注目される。このコロナ禍で在宅勤務,テレワークなどオンラインツールの進化が想定以上に

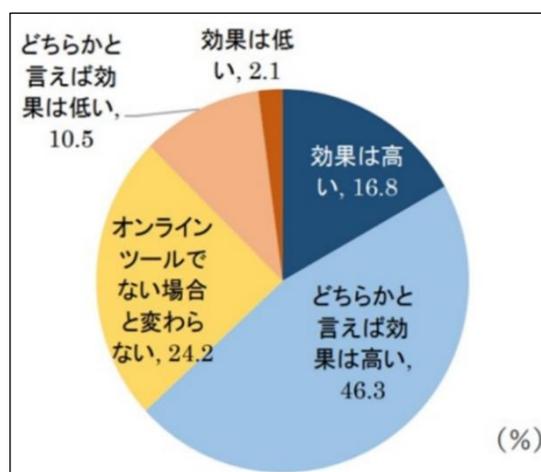
進んだ。また,コロナ禍により集合型研修・対面型研修が控えられていることが背景にあると考えられる。さらに,近年,大学・大学院等の高等教育機関を社会人のリカレント教育に活用することが期待されているが,実際に「大学・大学院・専門学校等の教育機関で受講」した者は4.1%という結果になっている。

資料5は,今までに自己啓発でオンラインツールを利用したことがある者に,オンラインツールの効果を評価してもらった結果である。その結果,「効果は高い」16.8%,「どちらかと言えば効果は高い」46.3%と,オンラインツールの効果を認める回答が6割以上を占めた。「効果は低い」2.1%,「どちらかと言えば効果は低い」10.5%と,低評価は1割強である。利用者に効果を認められていることから,今後,教育や研修の場でオンラインツールの普及が加速することが予想される。

世の中の声として,「コロナ禍で,職場に依存せずに個人のスキルを高めておく必要性を感じた」,「テレワークだと通勤時間がないので,平日に時間ができた」などがある。働き方の変化や外出機会の減少,景気の先行き不透明感などにより,スキル習得や自己研鑽,自己啓発を意識している20代,30代が多くなっている。上記の調査結果から



資料4 自己啓発の方法
公益財団法人 日本生産性本部調査結果レポート(R2.10.16)



資料5 オンラインツールの効果
公益財団法人 日本生産性本部調査結果レポート(R2.10.16)

も、20代から30代の若手世代が自己啓発に意欲的であった。新型コロナウイルスの流行と働き方の多様化を受けて、働く個人が主体的にキャリア形成を行うことの重要性が増していることが考えられる。テレワーク等の在宅勤務は、職場で仕事をするときと異なり、自分から求めていかないと、フィードバックを得る機会が少ないので、成長機会を奪われてしまっている。これらの背景からも、若手世代は、自ら学びの獲得の欲求が芽生えてきているのは確かである。

しかし、上記の結果からも、自己研鑽や自己啓発の必要性や意識、オンラインツールの効果も認識しつつあるが、実際の行動とは結び付かず、行動変容までは至っていないことが自明となった。

次からは、別な視点から述べてみたい。

以下は、エンワールド・ジャパン株式会社が実施した「新型コロナ禍におけるキャリア・転職意識調査」の結果である。(調査:2020年5月,有効回答数:4,636名)
質問「COVID-19の流行拡大を受けて今後のキャリアや転職についての意識は変化したか？」

- ・「大きく変化した」・・・30%,
- ・「少し変化した」・・・44%

以上から、74%が意識の変化を認識している。

この74%を対象に、さらに具体的な質問が続いている。

以下は、行動変容が見られた74%を対象とした調査である。

質問「キャリアや転職についての意識はどのように変化しましたか？」

- ・リモートワークが中心となる新しい働き方を希望・・・51%
- ・個人の能力・スキルアップへの意欲向上・・・46%
- ・会社に依存した働き方への不安・・・40%

質問「具体的に取り組み始めたことはありますか？」

- ・今後のキャリア（転職・キャリアアップ・副業など）を検討するための情報収集・・・58%
- ・スキルアップのための勉強・・・48%

質問「スキルアップのための勉強、何をしていますか？」

- ・英語・・・63%
- ・プログラミング・・・22%
- ・語学（英語・中国語以外）・・・9%
- ・デザイン, コーディング, CSS・・・8%
- ・MBA（経営学修士）, 経営学・・・8%
- ・心理学, コーチング・・・7%
- ・中国語・・・6%

以上の結果からも、キャリアや転職への意識の変化を各個人でも認識し、個人の能力・スキルアップへの意欲が向上していることが分かる。また、情報を収集し、スキルアップを志そうとする傾向もうかがえる。さらに、スキルアップ、行動変容の具体として、語学など勉強している人は多く、グローバルな視点で考えているようである。

3 学校現場に目を向けて

前述までの調査結果と分析を学校現場、教員に関連付けて述べてみたい。

学校現場は、臨時休校の時期を経験し、その後もコロナ禍の対応が続いており、これを機に、教員の働き方、勤務時間・校務量を見直す流れとなった。量を見直し、質的転換が図られてきているのも事実である。

また、臨時休校時には、研修を通じて人材育成を行う時間は確保できたはずであるが、実際には、「子供たちの学びをとめてはいけない」という責務からも、「子供たちの学習をどう担保できるか」についての方法に軸足が置かれ、教員の資質・能力向上の研修の機会は十分に確保できていなかったのが現状である。

無論、感染を警戒して従来型の集合研修が行いにくくなっていることや、前期はコロナ対応で研修などは後回しになっていた状況もあるであろう。後期は校内研修や校外研修の新しい形を模索している時期で、これから実施する可能性もあるだろう。

しかし、明らかに、公開授業やセミナーの案内、校外の研修が減った。年間を通じて研修の機会が激減したのも事実である。研修の機会があっても多数の教職員にアナウンスされたり、参加できたりすることは考えにくい。

現場でのOJTはどうだろうか。充実しているだろうか。OJTを十分に受けるべき若年教員層が、校務の優先順位や時間的な制約により、ベテラン教員よりもOJTを受ける機会が少ないことが明らかになっていることも聞こえてくる。

このような背景からも、教員の人材育成への取り組みは概して低調であり、このままでは、未来を拓く子供たちの教育向上に一層の後れを取る可能性がある。

救いになっているのは、資料からも分かるように若年層（20代、30代）の自己啓発意欲が比較的高いことである。参考資料の調査は20歳以上のわが国の企業・団体に雇用されている者が対象であり、教員向けの調査ではないが、若手教員の自己啓発意欲とも同様の傾向が得られると考えられる。コロナ禍が原因による2020年の研修の不足を鑑みても、今の教員の資質・能力は現在の自己啓発で補完する形になっていることが推察される。

コロナ禍が今後も進み、県や市町村・校内外の研修での人材育成に課題が多いのであるのなら、能力開発は自己啓発によって行う他は無い。しかし、これは「能力開発は自己責任」という流れであり、人的資本の強化・蓄積の方法として適切なのだろうか。

調査結果から、5割以上の者が、自己啓発に「特に取り組む意向は無い」と回答している現状から、能力開発を自己責任に任せることは、危うい将来が待っていることが懸

念される。

語弊があるかもしれないが、教育は先行投資である。国力を付けるためには、人づくりが重要である。目先の喫緊の課題や問題を解決していくことも大事であるが、それと同時に、先を見通した投資を教育にするべきではないだろうか。教員が育ち、子供たちが生まれ、地域が育つ。必ず、結果的に豊かな世の中になるはずである。

今後も、自己啓発を促しながらも、今一度、人材育成の意義を見直し、取り組みを強化するべきではないだろうか。これはあらゆる職種に言えることであると考えます。

次項からは、教員の学びも止めてはいけないという気概をもって立ち上げたプロジェクトの報告である。任意の参加、時間外のセミナーである。教員の自己啓発に、少しは寄与できたのではないかと自負している。

なぜ、立ち上げたかったのか、想いだけで終わらず具体とすることができた。行動変容と結び付いたこの取り組みについて、ご一読いただければ幸いです。

4 IBARAKI サイエンスオンラインセミナー立ち上げの背景

2020年3月～5月、新型コロナウイルス感染症の影響で外出が自粛となり、在宅勤務が進み、社会活動が鈍化した。学校も休業日が続き、これからの教育活動について先行き不透明な時期であった。そこで、教員の学びを止めてはいけないと考えた。今年度、小学校は新学習指導要領の完全実施の年である。また、3月、4月は新年度準備、教員の異動と新たな環境の下、教育活動をどのようにしていけばよいか現場が混乱していた時期であったことから、情報を仲間で共有し、新たなものを創り出したかった。

他の学校の様子が気になる。これからの学びの方向性はどのように変わるのか。何ができるのだろうか。学習評価はどうするのか。現場では混乱を来していた。

研修もできることはやっていくという気概をもって、試行錯誤しながら、最終的に任意参加のオンライン研修実施にたどり着いた。時間と出張旅費の抑制、そして3密回避ができることから、研修の質の担保を考えながら動き出した。

いつでも、どこでも、だれとでもつながることができるのが、ICTの強みであり、その強みを生かす研修、そして教員の学びの場ができた。

茨城県教育研修センターでもオンラインやオンデマンド研修を実施してきたが、そのオンライン研修の中でも、ここで報告する内容は、教員の自主研修の活動である。

ICTの強みをさらに生かし、学びを深めたい教員研修の場を提案し、この趣旨に賛同した理科のメンバーでIBARAKIサイエンスオンラインセミナーを立ち上げた。年齢や立場や勤務校は関係なく、理科教育等を学ぶ場となった。

勤務時間外、平日の夜の活動であり、参加は任意である。自宅から参加する人、学校から参加する人、様々であった。また、参加人数は多い時で20人弱、平均13人から15人程度の参加であった。年齢や立場も関係なく、若手の教員から指導主事まで多岐に渡り、学ぶことができた。

5 IBARAKI サイエンスオンラインセミナー実践報告

Web 会議システム (Zoom) を使い、講義時におけるプレゼンテーションの画面共有、分散会機能 (ブレイクアウトルーム) を使った小グループでの対話を実践した。

実践内容について、以下の表に示す。実施時間は 20 時から 21 時の約 60 分である。

研修テーマと分散会の問いの一部

第 1 回	4 月 30 日 (木)	IBARAKI サイエンスオンラインセミナーキックオフ 立ち上げの趣旨説明プレゼン
第 2 回	5 月 13 日 (水)	休業中の児童生徒への学習支援 (全体で意見交換) 問い:「教育格差を埋めるためには」
第 3 回	5 月 27 日 (水)	働き改革と自己研鑽 (全体プレゼン, 分散会で意見交換) 問い:「どんな自己研鑽をしていますか」
第 4 回	6 月 11 日 (木)	学校が再開しての実状 (全体説明, 分散会で意見交換) 問い:「今年度教育活動で、何に大切にしていけるべきか」
第 5 回	6 月 24 日 (水)	科学的な思考力を育むためには (全体プレゼン 中学校:実践 発表, 分散会で意見交換 問い:「書く力を付けるためには」)
第 6 回	7 月 8 日 (水)	学習評価 (全体プレゼン, 分散会で意見交換) 問い:「主体的に学習に取り組む態度」を育むためには
第 7 回	7 月 22 日 (水)	思考力, 判断力, 表現力等を育む理科学習指導について 問い:「思考力, 判断力, 表現力等を各教科で育むには」
第 8 回	8 月 5 日 (水)	県立高等学校附属中学校の取り組み 問い:「G I G A スクール構想, 一人一台で何ができるのか」
第 9 回	8 月 27 日 (木)	理科授業で取り組んでいること 茨城大学教育学部附属中学校 近藤教諭より
第 10 回	9 月 8 日 (火)	SDG s の取組 牛久市立おくの義務教育学校の取組 土居教諭より
第 11 回	10 月 6 日 (火)	教科横断的な学習について
第 12 回	10 月 27 日 (火)	これから注目される S T E A M 教育について
第 13 回	12 月 8 日 (火)	令和 2 年度長期研修発表 N o 1 ・神栖市立息栖小学校 ・茨城町立大戸小学校
第 14 回	12 月 22 日 (火)	令和 2 年度長期研修発表 N o 2 ・ひたちなか市立那珂湊中学校 ・水戸市立笠原小学校
第 15 回	2 月 24 日 (水)	茨城県教育研修センター 研究発表会 (理科部会) 小学校 (1) ・中学校 (1) ・高等学校 (2) の 4 実践発表 ・研究協議

※第 15 回は茨城県教育研修センター研究発表会への参加で最終回とした。

上記の日程と取組で、テーマを設定、分散会では問いを立てディスカッションを実施した。また、事前に参加メンバーには問いを通知し、事前学習で自分の考えをまとめ、当日の学びが深められるような工夫を行った。さらに、講座後は、振り返りを書いてもらい教育情報ネットワークでメール返信をもらう。セミナーを受け、振り返ることさらに実践に結び付けたり、理論を振り返ったりするなど、今までにない、より深い研修セミナーのサイクルの実現を目指した。

【セミナー展開のイメージ】



資料6は全体ディスカッションの様子である。参加者の顔を見ながらなので、通常の研修や会議のように感じる。また、プレゼンの画面共有は大きな部屋で行う研修より、見えやすく、分かりやすい。資料7はチャット入力の様子である。プレゼンを聞きながら、疑問点をすぐに入力ができ、参加者と共有ができる。プレゼンの画面共有、チャット入力、分散会の機能も分かりやすく使いやすいため、誰でも使え、普及性があると考え。また、録画機能があり、講座に参加できなかった人にも、録画面像を送り、活用してもらうことも簡単であった。この機能を使うことで、これからの会議や研修が1つの場所に集まらず、それぞれの学校から会議を開催できたり、参加ができたりと今後の会議の持ち方が変わると考える。実際に2学期からは、このシステムを使いながら会議や研修を行う学校も増え始めた。



資料6 全体ディスカッションの様子



資料7 チャット入力の様子

4月末から始めたことで、使い方やメリットが分かり、夏休みに自分でWeb会議システムを使って地区の理科部員会を開くなど、取組の広がりも見られた。また、サイエンスオンラインセミナーを担当したいと参加者から申し出があり、連携しながら協働でセミナーを開催できるようになった。

6 実践からの振り返り

IBARAKI サイエンスオンラインセミナー参加者からの感想では、「最近では集合研修が減り、勤務先の先生たちとしか顔を合わせていなかったのが、他校の先生方の顔が見ることができて、何かほっとした。オンラインでもつながりがあることを幸せに思う。」「オンラインセミナーは、移動時間も無く、有意義だと感じた。また、分散会があることで、問いについてそれぞれアプトプットできるので学びが深まる。これからも積極的に他のセミナー等にも参加してみたい。」「気軽に教員同士がつながる素晴らしさを実感し、つながることで安心感があつた。もし、今後、休校要請があつても、ICTを使うことで、児童生徒や教員同士のつながりを大切にしながら、授業や研修ができると感じた。ICTには無限の可能性があると感じている。」など前向きな意見が多かった。

年間を通して、このセミナーが実施できたのも趣旨に賛同いただいた参加者の皆様のおかげである。セミナーを実施したことで、多くの発信ができた。また、研修センターの講座実施とサイエンスオンラインセミナーから、現場の先生方のニーズや学ぶ意欲、オンラインでの課題、設定時間の課題も見えてきた。2021年、令和3年度はどのような年になるのか不透明な部分も多いが、このセミナーで学んだことを生かして、研修講座を構築し、自己啓発を促して行きたい。

今年度、新学習指導要領が小学校でスタートし、次年度は中学校がスタートする。し

かし、GIGAスクール構造の前倒しやSociety5.0、5G等々、次から次へと社会が変化している。今回の学習指導要領改訂では追いつかないことも多くなると思われる。次の改訂、2030年を待たずして、教育は大きく、方向転換をしていくかもしれない。そんな中、我々は、目の前の子供たちの教育をしながらも先を見て行かなくては行けないと、最近、強く思う。

最後に「自己啓発」と「自己研鑽」について述べたい。

スキルアップをするという点では意味が共通している「自己研鑽」と「自己啓発」であるが、辞書によると「自己啓発」には「精神的な成長」も含まれるとのこと。また、「自己啓発」は「自己研鑽」のように資格取得や語学力の向上などの具体的な目標ではなく、「生きがい」や「モチベーション」をテーマとすることが多いという点も「自己研鑽」と「自己啓発」の違いのようである。

学びは一生であることを考えると、私は「学びに向かう力」を教員自らがもち続け、耕し、歩んでいくことは大切なことであると思う。

「先生」とは、先を生きる人である。教師が、学びという生きがいを持ち、人生を豊に歩んでいくことを臨みたい。学べば学ぶほど、知らないことがあることに気付く。だからまた知りたい、学びたい、追究したいと思う。これは生きがいではないだろうか。

我が職と結び付けると、どれだけ受講者に「自己啓発の種」が蒔けるかが、我々指導主事に課せられた責任であると改めて感じている。

2020年は自分の人生の中で、大きな変化が起きた年であった。そして忘れられない、記憶にも記録にも残る年となった。その思いをこの研究紀要に記し、想いを残していきたい。

次項には第10回SDGsの取り組みの講座記録を掲載する。

最後になりますが、IBARAKIサイエンスオンラインセミナーの趣旨に賛同し、参加していただいたみなさま方に感謝いたします。

本稿を残そうと思ったのも、参加していただいた先生方の意志と意欲を何らかの形に残そうと思ったからです。ありがとうございました。

そして、本稿を最後までお読みいただいたみなさま方に、重ね重ね感謝いたします。

2021年（令和3年）1月 西條 博崇

参考資料

公益財団法人日本生産性本部第3回働く人の意識に関する調査結果調査

(2020年10月16日)

エンワールド・ジャパン株式会社「新型コロナ禍におけるキャリア・転職意識調査」

(2020年5月)

IBARAKI サイエンスオンラインセミナーの講座記録の一部

9月8日(火)第10回 IBARAKI サイエンスオンラインセミナー

19時55分チェックイン(招待メールを送る)

20時から21時

【牛久市立おくの義務教育学校 土井先生】

【進行:西條】

○SDGsの取り組み

先生方の振り返りを拝読すると学びがさらに深まりますので掲載いたします。

【オンラインセミナーを受けての振り返り】
(メール受信の一部)

・土居先生, SDGsについての発表ありがとうございました。SDGsやESDについては, どんな学習をしていこうかと私は勝手にハードルを高く設定していたなど発表を聞いて感じました。特別なことではなく今, 授業や行事で取り組んでいる内容にも, SDGsとつながる内容がたくさんあることに気がきました。それを教師がしっかりと意識して各教科や各学習をつなげていくこと第一歩になるのかなと思いました。おくの義務教育学校の総合的な学習の時間の取組は, 校外や地域とつながりがあり, すぐにマネできることではないと思います。

しかし, それぞれの学校や地域にあったやり方が必ずあると思いますので, 本校と本校の生徒に合ったSDGsを取り入れていきたいと感じました。また, よろしく願いいたします。

・発表ありがとうございました。おくの義務教育学校はすごいですね。最先端をいっていますね。なぜこんなに地域協力が得られるのか。どうすればこんなに地域力を高められるのであろうか。と探ってみたくまりました。本校, 私たちの地域でも地域力を上げていきたいと思いました。



10月6日(火)第11回 IBARAKI サイエンスオンラインセミナー

19時55分チェックイン(招待メールを送る)

20時から21時

【教科横断的な視点を踏まえた授業の実践】

【進行:西條】

先生方の振り返りを拝読すると学びがさらに深まりますので掲載いたします。

【オンラインセミナーを受けての振り返り】
(メール受信の一部)

・今日は耳だけの参加になりましたが, お世話になりました。教科横断的な視点で考えると, 今勤務している小学校では比較的やりやすいのかなと感じました。また, Zoom によるミーティングもとてもいいなと感じました。学校に戻った時にぜひ生かしていきたいと思いました。ありがとうございました。

・昨日のお話は, とても興味深く聞かせていただきました。教科横断的なカリキュラムの編成の必要性は, 以前から感じていました。しかしながら, 内容の横断化にとらわれていて, 子ども達の能力に着目した横断化という考え方には至っていませんでした。昨日, 一緒に(途中まで)話を聞いていた先生は, 「これやりたいんだ」と言っていました。ちなみに彼は昨年度の研究主任です。

・中堅の先生たちのやりたいことが実現できるような学校だいいなと思います。※彼は数学なので, 昨日の実践例の理科と数学の各科の授業にとっても興味をひかれたようです。日頃, 学校にいるとカリキュラムを振り返ったり, 改善点を考えたりすることができません。(とはいわずに考える余裕をもつとか, 考えなければならぬのだと思いますが)昨日は, とても楽しく過ごしました。ありがとうございました。

・本日はありがとうございました。私は, これまでコンピテンシーをあまり意識できていませんでした。私の勤務校は単学級というところもあり, 少しずつ計画してみたいと思いました。お世話になりました。

・大変お世話になりました。「活用・発揮」と発揮という新しい文言がとても印象に残りました。活用だけにどまらず, 発揮していくことで資質・能力, コンピテンシーになっていくのだと感じました。ありがとうございました。Zoomなど活用した動画をたくさん見たいと思います。

・今日もありがとうございました。やれそうなこと, やってみたいことが少し見えてきました。

・学校の教育目標を見つめ直して, 強み, 弱みを認識し, 弱みを補っていくことが大切ですね。ストロングポイントのみならず伸ばしていくことも大事だと感じました。やはり職員研修での共通理解, 伝達ではなく対話でしょうか。今, 足りないことも知れませんが, 雑談から始まり, 対話に流れる職員室でありたいです。

8月5日(水)第8回 IBARAKI サイエンスオンラインセミナー

19時55分チェックイン(招待メールを送る)

20時から21時

【県立鹿島高等学校附属中学校 大槻先生】【進行:西條】

○学校紹介及び県立鹿島高等学校附属中学校の取組

【GIGA スクール構想 一人一台端末の活用(鳴川調査官資料より)】

先生方の振り返りを拝読すると学びがさらに深まりますので掲載いたします。

【オンラインセミナーを受けての振り返り】(メール受信の一部)

・今日もありがとうございました。大槻先生の附属中学校のICTレベルの高さには驚かされています! クラスルームもいろいろできそうで興味深いのですが, 学校のICT環境や校種などによって取り入れることが難しい面があるのが高いハードルです。もう一つの高いハードルは, 先生方のICTスキルの向上です。今, うちの小学校は, ICTに抵抗のあるベテランの先生方にICTに「慣れ」ていただく段階です。◎パソコンでのデジタル教科書の使用(iPadにもデジタル教科書を入れてほしいとお願ひしています。)◎iPadから大画面テレビへの画像を転送する。◎Teamsに入って, テレビ会議をする。◎教室で, 校長先生の話(オンライン集会)を画面でみる。◎iPadのロイノートを活用する。(ここあたりになると, 難しいらしい...) いろいろ課題はありますが, やれるところからちょこちょこ頑張っていくです。

・本日もセミナーに参加させていただき, ありがとうございました。さすが大槻先生でした。何を学校のセールスポイントとして, どう工夫していくか, 常に考え努力し進歩していく姿, 見習いたいと思います。本市も年度末には, タブレットが全生徒分配置予定です。よい点を十分に生かして, よりよい授業, 学級・学年・学校経営を行いたいと思います。本日もたくさん勉強させていただきました。ありがとうございました。またよろしくお願い致します。

・こんなに市町村立学校との差があるのかと驚かされました。学校生活の様子がよく分かり, 小6の保護者が学校説明会を聞けば, 「受検させたいなあ。通わせたいなあ」と思うと思います。素晴らしい学校ですよ。課題も多いと思いますが, お身体に気を付けてこれからもご活躍ください。

・県内の学校の情報を共有できたのは本当に貴重な時間でした。ご準備も本当にありがとうございました。GIGA スクール構想で, 一人一人に端末が配備されます。これからは, それを使って何ができるかが大事です。みなさんと一緒に模索していきたいです。

・日本はICT教育ではや後発国ですが, 逆にそのメリットを活かして他の国でのICT教育の課題(韓国等から学ぶ)をしっかりと分析して効果的なICT教育を進めるべきであると思います。

